

山形市自転車活用推進計画 概要版

1. 計画の概要

●**目的:** 山形市は「山形市発展計画2025(令和2年3月策定)」において、重点政策として「健康の保持・増進」を定め、健康寿命の延伸に向け、食事(S)、運動(U)、休養(K)、社会(S)、禁煙・受動喫煙防止(K)に留意する「SUKSK(スクスク)生活」を推進するほか、身近な場所で健康な体づくりができる環境整備を行うこととしている。こうした背景を踏まえ、自転車を安全・快適に利用できる走行空間整備に加え、気軽に楽しく自転車利用を促すきっかけ作りや仕組み作りを行うことで、自転車利用環境整備を総合的かつ効果的に進めるため、山形市自転車活用推進計画を策定する。

●**区域:** 山形市全域

●**期間:** 令和4年度から令和9年度までの6年間

[国及び県の動向]

第二次自転車活用推進計画(国土交通省)

●**目標:**

●**計画期間:** 令和7年度まで

(目標1) 自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成

(目標2) サイクルスポートの振興等による活力ある健康長寿社会の実現

(目標3) サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現 (目標4) 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

山形県自転車活用推進計画(山形県)

●**目標:**

●**計画期間:** 令和3年度まで

(目標1) 自転車が安全で快適に通行できる環境の整備 (目標2) サイクリング環境の向上と情報発信による観光立県の実現

(目標3) サイクルスポートの振興や環境にやさしい自転車利用の促進等による活力ある健康長寿社会の実現

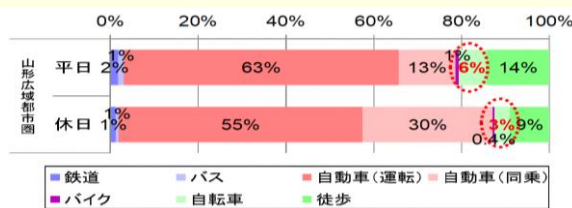
(目標4) 自転車・自動車双方の交通マナー向上と安全教育の充実等による事故のない安全で安心な自転車の活用

2. 山形市の特性と自転車を取り巻く現状・ニーズ

<現状>

1. 自転車利用特性

- 市内の自転車分担率は、**平日6%、休日3%**と低い。
- 自転車交通量が多い路線は、**市中心部に集中**しており、**自転車事故の発生割合も高い**。



【代表交通手段構成比】

3. 自転車レンタル環境

- 観光客を対象**とした「中心市街地観光レンタサイクル」、「西部地区観光レンタサイクル」が導入されている。
- 市内にて**シェアサイクルは導入されていない**。

2. 自転車道の整備状況

- 市内で整備済みの自転車道は**8路線**である。



【山形市内自転車道の整備状況】

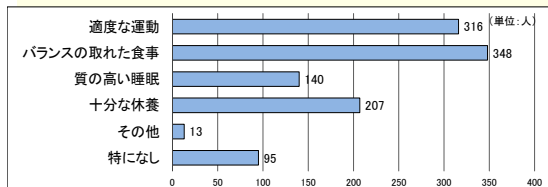
4. サイクリングコース設定状況

- 市内には、行政や民間団体が設定したサイクリングコースがあるが、**距離が長く高低差の大きいコース**が多い。

<市民アンケート結果(令和3年4月実施)>

1. 健康のために心がけていること

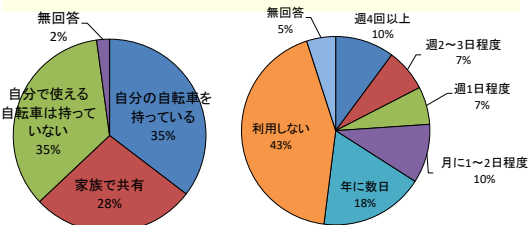
- 健康のために**意識的に運動している人が多い**が、運動習慣のある人は**4割未満**である。



【健康のために心がけていること】

2. 自転車の保有率、利用頻度

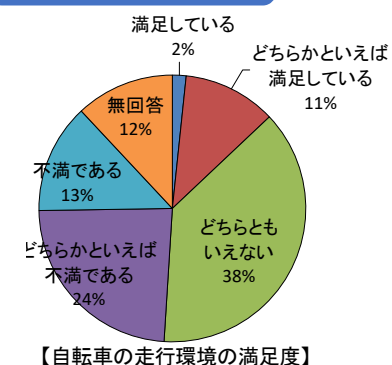
- 自転車**保有率は高い**が、**利用頻度は低い**。



【自転車の保有状況】

【自転車の利用頻度】

3. 走行環境の満足度

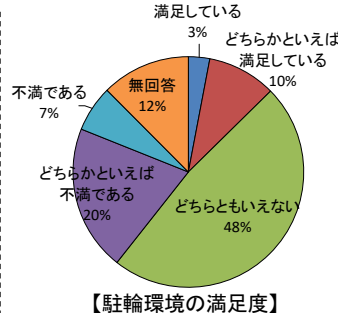


【自転車の走行環境の満足度】

◇主な不満点

- 安全に走れるスペースが無く危険**。
- 段差、凸凹**があって走りづらい。
- 自転車が**どこを走れば良いかわからない**。
- 電柱、看板等の障害物が多い。

4. 駐輪環境の満足度



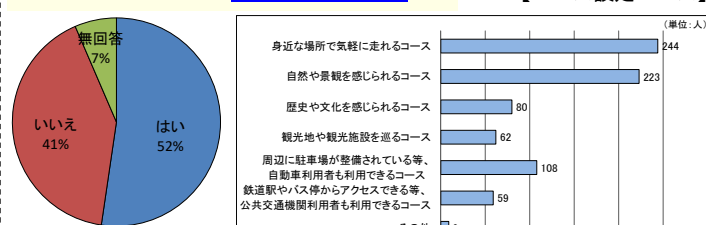
【駐輪環境の満足度】

◇主な不満点

- 駐輪場が足りない**。
- 駐輪スペースが足りない**。
- 屋根が無い。
- 自転車の出し入れがしにくい。
- 防犯カメラが無くて不安。

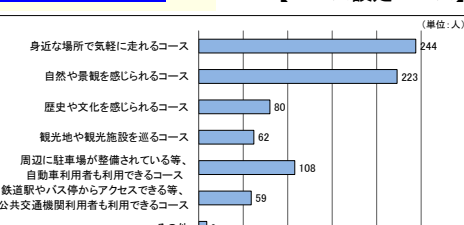
5. サイクリングコースの利用意向

- コース利用意向は**5割を超えている**。



【コースの利用意向】

【コース設定ニーズ】



<自転車利用の課題>

安心・安全	- 自転車が自動車や歩行者と隔離された通行空間がない。 - 自転車の走行空間に段差や凸凹が多い。 ⇒安全かつ快適に走行できる空間の整備が必要である。 - 市民において、自転車の交通ルールの周知に不満を感じている人が多い。 ⇒自転車の安全利用を推進するため、広報啓発や交通安全教育を充実する必要がある。
健康	- 市民において、運動により健康を増進する意識は高いが、運動習慣の定着率は低い。 - 市民の自転車保有率は高いが、自転車利用率は低い。 ⇒市民が自転車を利用するきっかけをつくり、さらに自転車移動が市民生活に定着するよう推進する必要がある。
走行環境	- 自転車が自動車や歩行者と隔離された通行空間がない。 - 自転車の走行空間に段差や凸凹が多い。 ⇒安全かつ快適に走行できる空間の整備が必要である。(再掲) - 欲しい場所に駐輪場が無く、既存の駐輪場の収容台数も少ない。 ⇒自転車利用者のニーズに応じた駐輪環境の整備が必要である。 - 既存のサイクリングコースは、中級・上級者向けのコースが多い。 - 市民のサイクリングコースの利用意向は高いが、気軽に自転車移動できる環境整備が不十分である。 ⇒サイクリングコースを市民や観光客が気軽に利用できるよう、様々なニーズに対応したコース設定や、コース利用を促進する必要がある。

3. 計画の目標と実施すべき施策及び取組

目標1 自転車事故のない安全で安心な社会の実現

施策1: 交通ルール・マナーの啓発

- ① 交通安全意識の向上を図る広報啓発
- ② 交通安全情報の発信
- ③ 通学路周辺の安全点検の実施
- ④ 自転車損害賠償責任保険等への保険加入促進
- ⑤ アフターコロナにおけるサイクリングの推進

目標2 自転車を活用したライフスタイルの推進

施策2: 自転車の利用促進

- ① 健康増進に資する自転車利用の広報啓発
- ② 自転車関連イベントとの連携
- ③ 自転車通勤の推進

施策3: 自転車移動の定着

- ① SUKSKアプリとの連携
- ② 自転車レンタルサービスの充実
- ③ シェアサイクルの導入推進

目標3 自転車を利用しやすい走行空間の整備推進

施策4: 自転車利用環境の整備

- ① 安全な自転車通行空間の整備・維持
(自転車ネットワーク計画の策定)
- ② 快適な自転車通行環境の整備・維持
- ③ ウォーカブルなまちづくりの推進
- ④ 無電柱化による自転車通行空間整備
- ⑤ 自転車と公共交通との接続性の向上
- ⑥ 地域のニーズに応じた駐輪場の整備
- ⑦ 放置自転車対策
- ⑧ サイクリング拠点の整備

目標4 多様なニーズに対応したサイクリングモデルコースの充実

施策5: 多彩なサイクリングモデルコースの設定及び利用促進

- ① サイクリングモデルコースの設定・充実
- ② サイクリングマップ等の作成
- ③ 店舗・コンビニ等と連携した受入サービスの充実
- ④ サイクリスト向け体験型・滞在型のコンテンツの推進

自転車ネットワーク計画の概要

計画の位置づけ

山形市自転車活用推進計画の「目標3 自転車を利用しやすい走行空間の整備推進」を実現するための「施策4①安全な自転車通行空間の整備・維持」の具体的な取組である。

目的

自転車通行空間の連続性を確保し、自転車ネットワークを構築することにより、自転車利用者・歩行者の安全な通行環境を創出する。

期間

令和4年度から令和9年度までの6年間
※自転車活用推進計画と同期間

区域

山形市全域

整備方針

道路の整備形態は、路線ごとに交通状況（自動車の規制速度及び交通量等）、道路状況（道路横断面構成）、沿道状況（乗り入れ、土地利用状況等）に配慮しつつ、道路管理者にて選定する。



優先整備路線

次の事項を考慮し、優先整備路線を決定する。

- (ア) 高校周辺など、高校生の利用が多い路線
- (ウ) 現在、自転車通行空間の整備計画がある路線
- (イ) 観光客の利便性に配慮すべき路線
- (工) 道路利用者や住民の理解が得られる路線

スケジュール

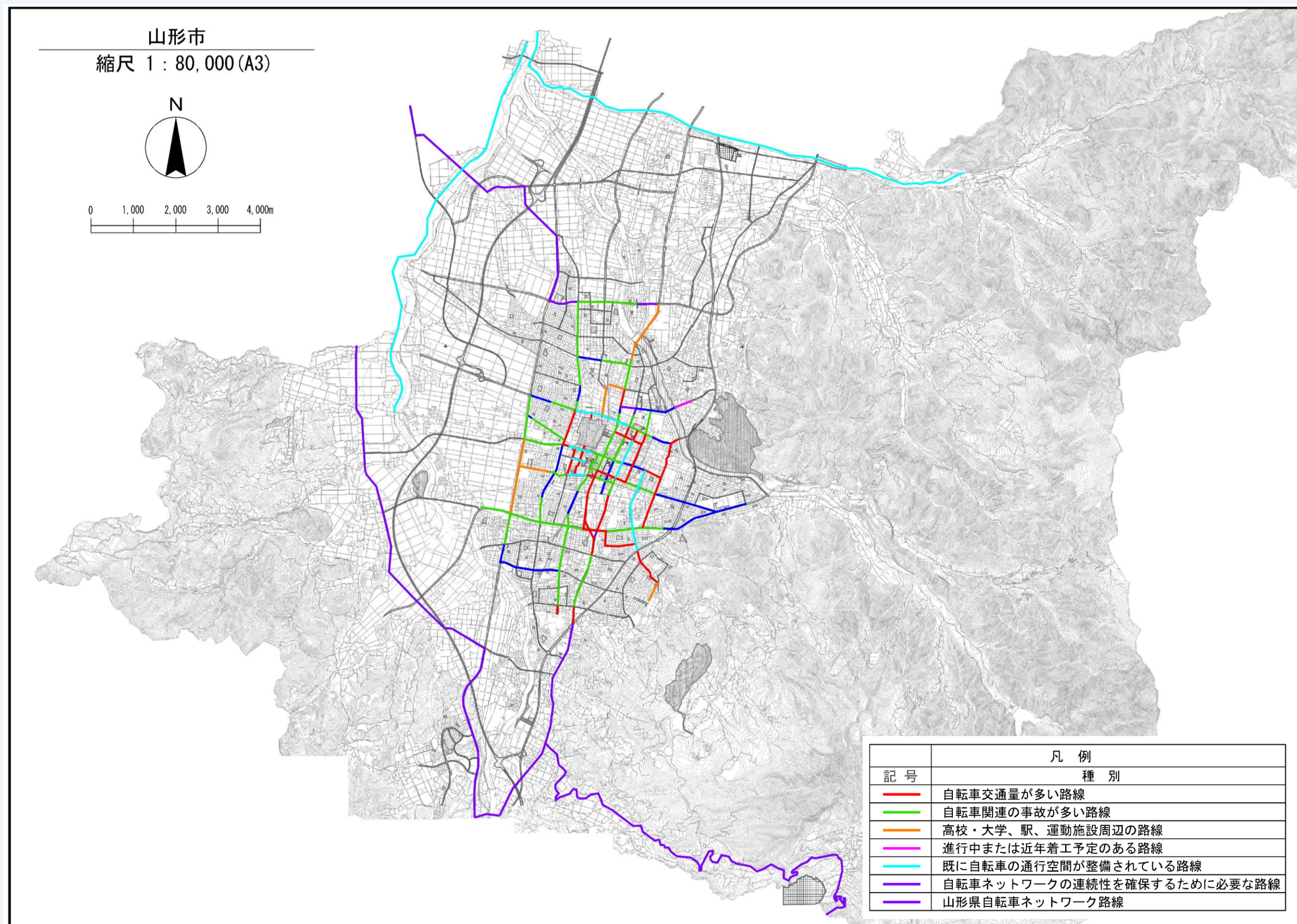
- 令和4年度
 - ・モデルコース審査組織の設置
(ウォーキング関連審査組織と同組織)
 - ・ネットワーク路線毎の整備形態の選定
 - ・優先整備路線の選定
 - ・地元への説明会の実施

- 令和5年度
 - ・令和4年度に選定した路線の整備着手

- 令和6年度～
 - ・前年度整備着手路線の進捗状況を勘案し、優先路線選定基準をもとに、随時整備路線を追加し、整備を進める

- 〈優先整備路線選定基準(令和4年度)〉
- ① 交通安全の観点から、高校周辺の自転車事故が多い路線
 - ② 観光による地域振興の観点から、自転車利用ニーズの高い路線

構築された自転車ネットワーク路線図



【自転車ネットワーク路線図】